

## 広く世界に目を向けて、相互理解や協力に努めよう (※1)

高普第6回卒 早水 恒利 (※2)

2年間、中国の学生たちに日本語と日本文化を教えた。彼らは必死になって日本を知ろうとしている。彼らが追いつこうとしている目標は、世界の先進国日本である。

学生たちとの付き合いや生活を通してあらためて実感したことは、日本の生活レベルの高さと豊かさであった。10年の大動乱といわれる文化大革命は中国に深刻な停滞あるいは後退をもたらし、60年代から70年代に飛躍した日本との差は計り知れないほどのものがある。



80年代に入って中国は大きく様変わりを見せており、特に対外経済開放と技術革新に国運を賭けているともいえる。最近とみに世界から注目されるようになったアジア・ニックス同様、遠からず、各分野で先進国に迫るであろう。

若い高校生諸君には是非とも世界に目を向けてもらいたいと思う。われわれはいかなる国、いかなる民族とも相互理解、相互協力に努めるべきである。疑い、怖れ、対立する時代を、日本は既に卒業してしまっただけ。今、相馬国際港をベースとして、相馬を国際都市に発展させるのはまさに諸君たちである。

(※1) 創立90周年記念誌『紅の旗』(1988(昭和63)年9月発行)

「今こそ伝えたい、希望と勇気を」==OBから若駒への熱きメッセージ==より。

(※2) 昭和29(1954)年卒、大野出身。昭和39~51年・相高教諭：国語/社会。

略歴：・相馬市長老内生　・東北大学文学部卒。　・相馬高校から福島高高へ転勤。

・1986年4月より1988年3月まで、中国陝西省西安市西安外国語学院専攻。

・当時、福島高校教諭、中国での研究結果を整理執筆中。